

山口高等学校と歴史の道「萩往還」



プロローグ

「今年の特集は何にしようか。」準備委員会の議題で持ち上がった時、今や山高の伝統行事となっている『萩往還を歩く会』が、実は93期の藤永君が発起人だったということで、全会一致でテーマが決まりました。ここではまず簡単に、萩往還についてご紹介いたします。

皆様よくご存じのとおり萩往還は江戸時代、参勤交代のため萩から三田尻を結ぶ約53kmを可能な限り幅二間（約3.6m）に整備した街道です。参勤交代の折には千人前後の大名行列が街道を通過したそうです。そのため、沿道には御茶屋、本陣、旅屋などの施設が整備され、地域交通や物流も盛んになりました。またお伊勢参りが流行し、信仰の人々を運ぶ道路としても発達しました。

しかし、文久3年（1863年）、藩庁の山口移鎮とともに街道は脇道となり、更に時代の変化とともに国道262号線として整備され、街道中の難所とされた場所はそのまま残され廃れてしまいました。

昭和53年（1978年）、文化庁が「廃れ行く歴史の道を往時の姿に復元整備し、歴史を学んだり自然に親しむ散歩道としての活用をはかる」とする施策を推進します。これを受けて山口県では昭和55年県教育委員会が主体となり、萩往還の実態及び文献調査を行い、今後の保存・活用について提言をまとめます。それにより、山口市では翌56年から、旭村では57年からそれぞれ4年かけて道路整備を行い、更に3～4年かけて沿道の史跡・標識等の整備を進め、ついに昭和63年（1988年）歴史の道「萩往還」保存整備事業が完了し現在に至ります。

昭和63年というと、丁度私たち93期が高校を卒業する年です。私たちが高校3年時に「歩く会」が企画されたので、美しく蘇った萩往還をいち早く歩いたこととなります。さあ、当時なぜ萩往還を歩こうと思ったのか、企画運営に携わった藤永君ご本人の寄稿を是非ご一読くださいませ。



資料提供：山口市観光コンベンション協会

萩往還を歩く物語

普通科 93期 藤永 充博



1990年代のSMA Pの歌の歌詞に「東京タワーで昔、見かけた土産物に貼り付いていた言葉は努力と根性・・・」。秋芳洞など山口県の代表的な観光地にも努力や根性といった文字が書かれている大理石製の置物が土産物として沢山売られていた時代、努力とか根性という言葉が非常に美しいと感じていたものの、それを勉学に向けることもしなかった高校生の私がいました。

努力と根性による達成感を欲していた私に当時整備され始め、ローカルメディアにも紹介され始めた萩往還道を一度歩きたい、そんな欲求が芽生え始めました。当時、応援団長兼2年生の学年後期生徒会長であった私は達成感を大勢で共有しようと“萩往還を歩く”ことを学校の行事にしたてあげることを思いついたのでした。そこから、単なる思いつきを「歴史を感じる努力と根性の学校行事」として実現させるための活動が始まりました。

第一に萩往還道を実際に歩いてみての安全性確認。整備が始まったとは言え、まだ初期段階。バスで萩に到着した生徒会執行部と応援団の精鋭部隊はまずは萩往還道のスタートを探すことから始まりました。萩駅近くにそれらしき場所を見つけ（実際に正しいかどうかはわかりませんが）山口までの第一回下見歩行が始まりました。途中どこで休憩するのか、弁当はどこで食べるのか、未整備の道も多かった当時は本来の道が歩けない箇所も存在し、国道をう回・・・、試行錯誤の第一回目はかなりの時間を要して、夕方遅くに山口に帰り着いた気がします。若干歪んだ努力と根性を持っていたのか、第一回目の下見を鉄ゲタ（よく持っていたのですが）で歩き始めた私は当然と言えば当然ですが早々に鉄ゲタ歩行を断念、運動靴に履き替えるも、鉄ゲタ入りのバックを抱え、へとへとで到着した気がします。努力と根性と達成感に企画する立場としての責任感が加わり、それから第二回、第三回と下見を行った結果、それなりに綿密なスケジュールを作ることが出来ました。

記念すべき第一回萩往還を歩く会は3月20日前後に開催。当日は運営で頭がいっ



ばいであったことから、萩往還の途中の記憶は全く無く、到着間際に感無量で見た山高の校舎だけははっきりと覚えています。その翌年、高校3年の3月に「第二回」に参加、私の「萩往還を歩く会」はそこで終わりました。

それから努力と根性が書かれたお土産をすっかり見かけなくなり、インターネットやスマホが普及したある時、ウイキペディアというのを知り、山口高校の説明で「萩往還を歩く会」が開催され続けていること、それも創立130周年を記念し2001年から萩高校との共同開催にパワーアップしていることを知りました。正直めちゃくちゃ驚きました。実現には責任感満載でしたが、思い付きから始まった行事が20年以上も続いていたのですから。

あるインターネットの記事では萩往還を歩く会に関わりたくて山高を選んで、入学後は生徒会に入った人のインタビューも。その記事には「山高の柔道部員が萩高校の練習か試合を終えた後、歩いて学校まで帰ったことがルーツであること」と「生徒の意志で自然発生的に始まり・・・」、そんな紹介がありました。本当は、柔道部員が歩いて帰ったことからでも、自然発生的ではなく、きっかけは努力と根性で長い距離を歩くことを目指した思い付きですが、当時の生徒会と応援団の多くの仲間と当時の顧問の先生の努力と根性と責任感によって実現、そして30年以上も続いている行事です。



平成 30 年度「萩往還を歩く会」報告

普通科 93 期 岩尾 健一



平成 31 年 3 月 24 日(日)、今年も恒例となっている「萩往還を歩く会」が開催されました。今年度は萩高校より一般生徒 55 名、運営にあたった生徒会生徒 11 名、山口高校からは一般生徒 136 名、運営にあたった生徒会生徒 12 名が参加しました。そのほか近畿鴻峰会を中心に 67 期から 80 期の山口高校同窓生の方々も一緒に歩かれました。当日は晴天にも恵まれ、すべての生徒が途中リタイアすることなく萩の梅林公園から山口県庁までの道のりを完歩しました。また山口高校同窓生の大先輩の方々も現役の生徒とともに元気に歩かれゴールの県庁まで歩かれていました。また昼の佐々並公民館では萩高校・山口高校の生徒会が合同でレクリエーションを企画・実施し親睦を深めていました。

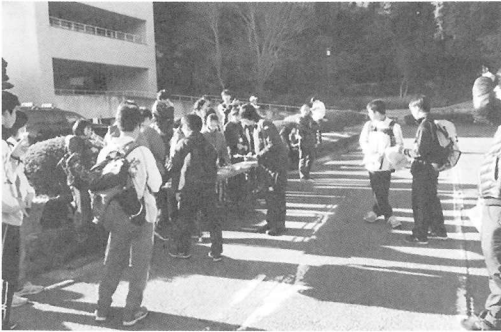
◎「萩往還を歩く会」 略歴

- *昭和 62 年 3 月 生徒会主催行事として第 1 回を実施。
- *平成 13 年 山口・萩両高校の創立 130 周年を機に記念行事として合同開催を実施。

◎今年度の実施要項

- 1 実施日 2019 年 3 月 24 日(日)
- 2 日 程

	【山口高校】	【萩高校】
6 : 25	新山口駅前集合	
6 : 30	バス出発 (新山口駅発)	
6 : 50	山口県庁集合	
7 : 00	バス出発 (山口県庁発)	
8 : 00	梅林公園到着	7 : 45 梅林公園集合
8 : 20	出発式	
8 : 30	班単位での一斉出発	
9 : 50	萩市明木到着 (萩市明木支所・乳母の茶屋でトイレ休憩)	
12 : 20	佐々並到着 公民館で軽食 (各自持参) 豚汁が萩高 PTA から振る舞われます	
12 : 40 ~ 13 : 20	萩高と交流会	
13 : 20	佐々並出発	
15 : 30	旧夏木原キャンプ場到着 (ジュース配布)、適宜トイレ休憩	
16 : 30	六軒茶屋 適宜トイレ休憩	
17 : 50	山口県庁到着 完歩記念品を受け取り	



萩往還を歩いてみようかい (会) ?!

普通科 93期 池田 恵子
(旧姓 中間)



今年度の特集が萩往還に決まった時、ならば会報部会として歩いてみないとな！と企画を立てることになりました。

私も会報部会のお手伝いをさせていただいている手前参加せざるを得ない状況ではありましたが、実のところ「是非歩きたい」という思いでした。なぜなら、32年前藤永君が企画した時「参加したい！」と心の中で思っていたものの、その思いを封じ込めたまま卒業してしまったからです。

まさか50になって、高校時代の旧友と萩往還を歩く機会を得ようとは思ってもみませんでした。そもそも同窓会に関してもこれまで全く無関心で、高校の知り合いは同じ部活動だったメンバーと年賀状のやり取りだけで、山口市内に居てもほとんど誰ともコンタクトを取っていませんでした。

しかし、職場で中学高校と同じだった同級生に「ここに居たんだ！」と声をかけられたのがご縁の始まり。去年の同窓会に誘われ、長崎委員長に会い、準備委員会に引っ張られ、会報部会で萩往還の特集を組むことになり、32年の時を経て再び萩往還を歩く機会を得たのです。

とは言え、完全運動不足状態の者を含むおじさん、おばさんが歩くのですから全路程は到底ムリ！ということで、見所多く風情のある区間「天花坂口～国境の碑」までの峠を含む約2.5キロを「やまぐち萩往還語り部の会」にガイドをお願いし、歩くことにしました。

前日までの寒さが和らぎ好天に恵まれた3月17日、集合場所の天花坂口の駐車場で待っていると、「おじさん」たちがポツポツ集まって来ました。多分同期だろうと思いつつも、誰か分からず声も掛けづらい感じで、本当によそよそしい顔合わせでした。

しかし、参加者9名が揃い自己紹介をして、語り部の方の案内で歩き始め、ぼちぼち話しをしたら、徐々にお互い高校時代の遠い記憶が蘇って来てくるではありませんか。すると人間って不思議ですね。高校時代の話をしていると気持





ちはすっかり10代になるんです。気持ちは若返っているのに、生身の体は当然の事ながら運動不足の50の体！急な坂道では「はあーはあー」言いながら、気持ちと肉体とのギャップを痛感させられました。

名所旧跡で立ち止まり、語り部の方が古の人々の暮らし、情景、由来など解説して下さいます。お話を聞いているとその当時の光景が蘇ってくるようです。石畳の坂道を振り返れば、今にも千人規模の大名行列が目の前を通過していくような、はたまた維新の志士が志を胸に走り抜けて行くような、と言っては少しオーバーですが、でも何百年と変わらずそこにあったであろう岩など見ると、時空を超えた感覚が味わえます。

まだ一度も萩往還を歩いたことのない方は、是非、やまぐち萩往還語り部の会の案内で少しの区間だけでも歩いてみる事をお勧めします。自然に囲まれながら、豊かな時を過ごせること間違いなしです！

今回は会報部会を通して歩くことができましたが、高校時代にも参加すべきだったなと改めて思います。これから先は本当に「次」「今度」という保証がどこにもないので、同窓会で繋がったご縁を大切に、「時」を逃さないようにしていきたいです。

取材・資料協力：山口観光コンベンション協会・やまぐち萩往還語り部の会事務局

<http://hagi-okan.yamaguchi-city.jp/>



エピソード～オトナのクルマ・萩往還

今回の「萩往還」特集は、実際に「歩く」ことをテーマとした。

萩往還は、全区間の距離は53キロ、標高差は534メートルもある、耐久徒歩大会も開催されるほどのコース。

93期で山口市から萩市への山越え区間を歩いてみたが・・・、全区間を歩くことは難しいと感じた。

歩き終わった後の打ち上げで、友人と「体力がないな」「息が上がっていたぞ」と笑いあう中、「スカイラインが・・・」と、昭和世代にピンとくる車名が耳に飛び込んで来た。

「さてよ、その手があったか」と「車で走る」ことを思いついた。萩往還を歩くレポートは星の数ほどあるが、ドライブレポートは見あたらないのだ。

車で走るにしても、昭和・バブルまっただ中をターボだの無鉛ハイオクだの言いながら駆け抜けた私としては、車種には拘りがある。

世はハイブリッド全盛だが、せっかく走るなら、熱く大目に化石燃料も燃やしたい。

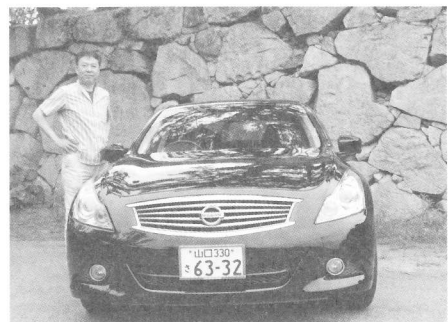
そこで、色々と車種・オーナーを調べ、これだ、というコンビを発見、今回、スカG×ドライバー浅川、レポーター板垣で萩往還を走ることにした。

スカGといっても、30年前の車ではない、最新のオトナなクルマ「250GT」で、パワフルで安定した走りを見せてくれるだろう。

萩往還は日本海から中国山地の丘陵地帯を超え瀬戸内海に至る、車・ドライブ好きには文句なしの素晴らしいコース。

自然公物に築かれた街道（実際には併走して整備されたアスファルト）を、最新のマシンと昭和男はどう走り抜けるのか、ワクワクしながらスタートの萩城跡に向かった。

萩城跡に到着すると、初夏の陽射しの中、ドライバー浅川君はスカGとともに待っていた。



浅川×スカイライン250GT

助手席に乗り込むと、早速スタートだ。短く高いクランキングの後にエンジンが目を覚ます。早朝の城下町をゆったりと流す。走りはあくまでジェントルで、低速のトルク感は重厚、アクセルを踏んでいなくてもパワーを感じる。

キラキラと光るボンネットに白壁の美しい景色が映り込みゆっくりと流れていく。美しい町並みには、車が景色に溶け込むような、静かなドライビングが似合う。



重厚なトルク感、低速ドライブも余裕

だったら、白煙とともにタイヤがスリップするような場面もあったが、現代のスカGは、大パワーを2輪で完璧に受け止めている。

あっという間に坂道を駆け上がり、道の駅「萩往還」に到着。温まったV型6気筒エンジンを、高杉晋作、久坂玄瑞など、松下村塾の塾生10人の銅像が出迎えてくれた。

ここからしばらくは、コーナーも少なく走り易いが、角力場からのドライビングは、少し気を付けなければならない。急カーブが連続し、橋梁も多く路肩は狭く、山越えのヒルクライムが加わる。

スカGは、車体のロールも一切見せず駆け上がる。タイヤが軋むこともない。路面に張り付いたように走り抜けてゆく。オンザレールとはこのことを言うのだなと感心しながらシャッターを切った。

市街地を抜け、旧萩有料道路の坂道に入り、スポーツモードへ切り替える。エンジンレスポンスが鋭くなる仕掛けだ。アクセルを開けると、一気にレッドゾーン手前まで吹け上がり、乾いたエキゾーストノートが室内にも入ってくる。車はパワフルにぐっと前に出ていく。スカGのキャッチコピーが「羊の皮を被った狼」だったことを思い出した。一昔前の車



道の駅「萩往還」

登坂車線を一気に駆け上り、鉾ノ切峠を通過、ゆるやかな下りを流しながら、道の駅「あさひ」に到着。昭和な男二人で休息を取る。舌が焼けるような熱い珈琲をすすり、デュポンのライターで煙草に火を点ける。デュポンの甲高い開閉音が心地よく響き、紫煙が喫煙所の青い空に流れていく、昭和な男の二人旅はこうでなくちゃならない。



鋭いアクセラレスポンスを発揮するV6

道の駅「あさひ」を出発すると、長い登り短い下り、S字カーブの混在する区間に入る。まさに「狼」が牙を剥いた、そんな気がした。車は路面をとらえて離さず、みしりとも言わない堅牢なボディとセミバケットシートが、しっかりとホールドしてくれるので、きついコーナーでも安心感に包まれる。

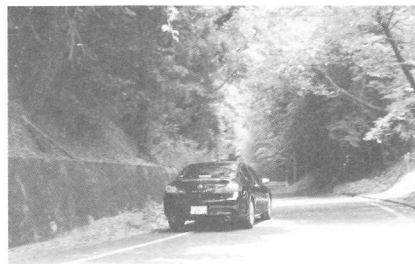


峠道もスポーツモードで軽快

アクセルワークと7速オートマチックが調和し、力強く伸びやかで途切れることがない加速、大径ブレーキによる制動力、スカGの真骨頂であろう。

右折し、県道山口旭線に入る。ここから瑠璃光寺までも腕の見せ所が続く。加速と制動を繰り返し、むせび泣くようなV6エンジンの咆哮を聞

きながら、我々は、30年前と同じ目的地である母校を目指す。少しブレーキを残すようにハンドルを切っても、不安定な挙動、ロールは無く、流れるようにコーナーを抜けて行った。我々が、熱く夢見た30年前のスカGは、かくも進化を遂げていた。



堅牢なボディと確かな制動力は下りでも安心感を与えてくれる

お土産は、無事故でいいのお父さん。そんな交通標語があった。しかし、令和の時代に生きる昭和な男二人、手ぶらで帰ることなどできやしない。せめて、山高前に移転した事務局さんには、お土産が必要だ。

母校は、現役生達の弾む声で溢れかえっていた。今の時代の子どもたちは、車にはほとんど興味がないと聞く。何と勿体ないことか！安く広くて、税金の負担が少ない軽自動車が人気らしいが、車にコスパなど求めない昭和の男二人は、道中で買った佐々並豆腐を事務局さんに渡して任務を完了した。昔ながらの製法を守って作られた固く締まった豆腐で、ハードなドライビングでも型くずれしない、素晴らしい逸品である。維新十傑の一人、大村益次郎が愛した豆腐もこのような豆腐であったはずだ。



ささなみ豆腐を手に思わず笑顔

我々は、現代の技術の粋を集めたマシンで、萩往還を疾ってきた。かつての志士たちが駆け抜けた道、毛利のお殿様が籠に乗られて山口に来られた道、そして庶民が生活のために使った道を走ってきたのだ。江戸時代の人々が半日かけて歩いた距離をたったの1時間余りで。しかし、その1時間で、当時に思いを馳せることも出来た。

この駄文を読まれた皆様方をお願いしたい。徒歩が無理ならば車でもいい、是非、萩往還を感じてもらいたい。そこには、本物の歴史が存在し、幕末のロマンがあり、山口の先人達の息吹が感じられるのだから。

TEXT by 浅川剛史 × 板垣臣一 (普通科 93 期)



ニッサン スカイライン 250GT
DBA-V36
VQ25HV型6気筒 2495cc
最高出力225ps/6400rpm
最大トルク26.3kgf・m/4800rpm
マニュアルモード付フルレンジ電子
制御7速オートマチック

※サポートカー
ホンダ CR-Z (ZF-1) 無限

【番外編】取材後のオトナのメシ
浅川さんのお誘いで春來軒へ
定番の「ばりそば」と「ちゃんぽん」をオーダー
30年前は楽勝だったが・・・
オトナの胃袋は超満タン
さらに飛び出たお腹をベルトで押さえ、お店を後にした。
ドライブとセットでいかが？



山口高校同窓会本部・同窓会総会準備委員会事務局の移転統合について

山口高等学校（以下、山高という。）の同窓会は、山高内にある「同窓会本部」と、同窓会総会に向け当番期で構成する「同窓会準備委員会」の2つの組織・事務局で運営されています。

これまで準備委員会の事務局は、湯田温泉にある「プラザホテル寿」様のご好意により、宿泊棟の一室を借用し設置していましたが、本部と別の場所にあるため、「事務局の移転統合」が長年の課題になっていました。そこでこの度、多くの方のご協力により、2つの組織の移転統合が完了し、平成31年4月に事務所開きが出来ましたことをご報告させていただきます。

移転統合に向け、昨年9月に移転先の物件探しに取り掛かりましたところ、たまたま山高の正門前に山高OB様が所有するアパートがありました。移転統合の趣旨をご理解いただき安価で貸していただけることになり、候補地はスムーズに決まりました。その後、本部と準備委員会の間で契約等の諸条件の調整を経て、長崎準備委員長から二井会長に報告し、移転統合に向けた最終的な了解をいただきました。

準備委員会の引越し作業は、経費節約のため自分達の手でやる気満々の93期23名が集まり、12月8日にレンタカーのトラックを使って行いました。お世話になったプラザホテル寿には、相当量の荷物がありましたが、搬出・搬入は午前中に全て終わることができました。その後、年明けから事務所内にデスクや書架、空調なども整備し、3月下旬には本部の荷物の搬入も完了して、無事、4月の事務所開きにこぎつけることができました。

半年の期間を要した事務局の移転統合により、準備委員会の打ち合わせはもちろん、本部との情報共有も大変効率よく行うことができるようになりました。また、移転統合という経験を通じて、同期の絆がより一層深まったと感じております。

令和2年度は、創立150周年記念事業が計画されています。引き続き、本部と準備委員会が連携し、同窓会の円滑な運営ができるよう、私たちも微力ながらサポートしていきたいと考えています。



同窓会事務局（アパート2階）



事務所開き（4月）
栗林校長（左前）と事務局

事務局にお気軽にお立ち寄りください。

両事務局が統合され、分からない事を気軽に聞けるようになりました。

また、双方の事務所に間違っ
てかかってくる電話の対応にも
迅速に対応できるようになり、
大変便利に感じています。

山口高校も目の前で、打合せ
や資料収集と本当に便利になり
ました。

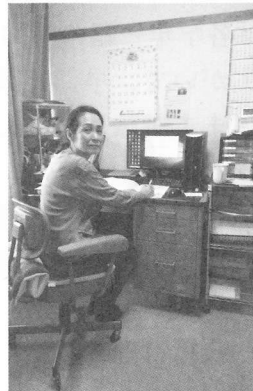
物理的にも精神的にもどっぷり
山高につかっている山高同窓会総
会準備委員会事務局の吉岡です。

何年か前(何十年!?)山高生だ
った人達をお手伝いし、教えを請い、
目の前の山高生に朝な夕なにエ
ールを送る日々です。

山高愛にあふれる事務局をこれ
からもよろしく願っています
m (._) m



同窓会総会準備委員会事務局
中野桂子(左)、吉岡史子(右)



同窓会本部
古谷くるみ



杉田 則夫

令和元年度同窓会総会準備委員会
会計部会長(普通科93期)

山口高校同窓会本部
山口高校同窓会総会準備委員会事務局

〒 753-0070

山口市白石二丁目6番34号
守田アパートA棟2-1号

TEL 083-921-8015

FAX 083-921-8016

E-mail ymg.doso@mild.ocn.ne.jp

